
もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら.....Fate/stay night編

リベリオン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら…… Fate/s

t a y n i g h t 編

【ZINEコード】

N4871Z

【作者名】

リベリオン

【あらすじ】

もしアニメや漫画の世界にチートオリ主が転生して縦横無尽に暴れまわったらとゆう妄想から生まれた作品です。現在は不定期更新です。ここ重要!!

プロローグ（前書き）

この小説は作者の妄想の垂れ流しです。

プロローグ

どうも初めてまして、俺の名前は、**巖島 晃** 何処にでもいる17歳の高校生だ。

趣味はテレビ観賞（アニメのみです。） やゲーム（学校には行かずやりこんでいます。） そして読書（全て漫画のみです。） と ゆう健全な学生だ。（世間では彼の事を一ートや引きもつと言います。）

そんな健全な学生（ちがいます。） である俺は今、17年間の人生で最大の出来事に見舞われていた。

俺はいつも道理にベッドに入つて寝たはずだった。しかし、次に目を見ましたら其処は白い空間だった。

例えるなら白い宇宙といったところだらうか…………まあ宇宙がどんなのかは知らんのだが…………

まあいきなりこの白い世界にいた俺は誰かいいか探し始めたのだが…………いや、特に問題があつたわけでもなく人は簡単に見つかった。とりあえず俺は見つけた幼女に声をかける事にした。しかし…………

「申し訳ございませんでした

」

とこぎなり土下座されて謝られたのだった。

いやあしかし……見事なジャンピング土下座だつたな…………と、今は感心している場合じやないな。

「えっと……君はここで何処だかわかる？あと何で俺がここにいるのかわかる？」

白いTスローリを着て俺の前に土下座してビクビクしている幼女に俺は出来るだけ優しく問い合わせた。

そうすると土下座している幼女は土下座をしたままの態勢で顔だけこっちに向けた。

「怒りませんか？絶対におこつませんか？」

幼女は涙目をウルウルさせて問いかけてくる。

そして俺はこいつ思った……萌え~~~~と

ゲフン、ゲフン…………と、それはさておき……

「怒らないから話してくれないかな」

「うう……わかったました。……えっと、個々は生と死のハザマの世界で、人間でゅうといふの

三途の川と呼ばれている場所です。」

なるほど……個々は三途の川だったのか…………あれ？ちょっと待て、なんか可笑しいぞ。

「何で俺は個々にいるんだよー普通三途の川って死んでからくる所だよな！俺死んでねーぞ！」

「ひつー……あのですね…大変申し上げにくいのですが…貴方は既に死んでいます。」

「へ?…まじですか?何でですか!何で寝ただけで死んでるんすか!」

「えつと…すみません。原因は私なのです。」

「どーゆうこと?」

「あのですね、私は一応天界に住まう神の一人で名前をアテナと言います。それでですね、最近残業が続いていまして……息抜きテレビで漫才を見ながらにオレンジジュースを飲んでいたのですけど、私がオレンジジュースを口に含んだ瞬間……漫才が笑いのツボにはいつておもいつきりオレンジジュースを噴出してしまして……偶然近くにあつた魂の書類を汚してしまいました……」

「それで俺が死んだと……」

「本当に申し訳ございませんでした」 「いや謝らなくていいよ…うん。全然怒つてないから……」 本当にですか!よかつた〜〜

そう言つて幼女ことアテナは土下座状態から立ち上がりつとする。

「ああ、言い忘れていたのですが、神のミスで死んだので貴方には……つてなにしているのですか? ! なんで指をポキポキつて鳴らしているのですか!」

完全に土下座状態から立ち上がったアテナは俺の行動をみて驚き顔

を恐怖にゆがめる

「んー？特に意味は無いよーただ思いつき田の前のやつを殴りつ
としているだけだから…」

「ひいいい、怒っていますよねー絶対怒っていますよねー！」

「オコシテナイヨ……ゼンゼンオコシテナイヨ」

「ダウトです！絶対に怒っていますーとゆうか、私の様な幼女を殴
るのでですかー幼女虐待ですよー！」

「つむせーーー！俺は幼女だろうが、学生だろうが、隣の家のばー^や
ちゃんだろうがファーストレディーだろうが殺^やるときは殺^やるんだよ
！とゆうわけで……歯をくいしばれ
ン ム主人公みたいなかんじ」

「イヤヤヤヤヤヤヤアアアアアアアアアアアアア

「

そして、数分後……

「ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴ
メンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメン
ナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサ
イ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、ゴメンナサイ、

俺は虚ろな目で壊れたラジカセの様に謝り続けるアテナを見て思つた。

「しまつた。やりすぎあまつた。」

どうしてこうなったのだろうか……少し状況を整理してみよう。

俺は某ガン ム主人公みたいにアテナに殴りかかつた。でも「幼女を殴るとは！お前は人間か！」とゆう声が頭の中に響いたので仕方なく殴るのを止めたのだ。しかし、アテナが凄く怯えちゃつてまともに話ができなかつたので、俺はアテナに心温まる話（簡単に人を精神崩壊させるような内容です。）を聞かせてあげたのだ。そして、俺が話しあつた時にはアテナはこうなつていた。うーん……何があつたのだろう？まったくわからない。（100%貴方の心温まる？話のせ）です。（）

つと……とにかく先に「マイシをどうにかするか……」を決めることが出来ないか……

さて……ガチでどうしよう……どうかに捨ててこようかな……

捨てちゃあだめですよー。　BY宇宙の意思（作者）

ん? 今のは一体……まあどうでもいいか……それで……捨てるのは駄目なのでどうにかして正気に戻さないといけないのだが……そうだ! この前テレビで見たあの技なら。

ナサイ、「メンナサイ、「メンナサイ、「メンナサイ、「メンナサイ、「メンナサイ、
イ、「メンナサイ、「メンナサイ、「メンナサイ、「3、2、1、
パー（指を鳴らした音です。）……ハツ！私は一体何を……」

おつー戻った。どうやら俺が殴りかかる今までの記憶が無いらしい

「それどうしつき何か言おうとしていたけど、何を言おうとしたの
？」

「ああ、そうでした！一番大事な事を言い忘れていました。えっと
……神様のミスで死んでしまいまだ寿命が残っている人は別の世界に
記憶を引き継いで転生する事になります。あとお詫びとして7回だ
け願い」とをかなえる事ができます。」

「ほ～そうなのか……んじああさつれと転生しますか。」

「切り替えが早いですね……まあいいんですけど。それじゃあ願い事
を言ってください。たいていの事はかないますから。」

なるほど……いろいろチートを付けれるつてしまつ」とか完璧だな。よ
し、まず最初は……

「そうだな……じゃあ一つ目は転生後に『テットライジング2』の主人
公みたいなガムテープで何でも作れるようにしてくればいい？あと作
る時の物理法則無視とFate/stay nightに出てくる
宝具級の物も作れるようにしてね。」

「無茶苦茶ですね……まあいいですけど。とにかくこの能力の名前、
どうします？」

「もちろん、『ガムテープの鍊金術師』でよろ」

「はあー……はい設定しましたよ。次はどうします?」

「そうだな……次は、転生語に『Fate/stay night』に出てきた、『ゲート オブ バビロン』のようなのが欲しいな。とにかく何でも入って、1回でも中に入れたら取り出してもなくならない様にして欲しいんだけど」

「わかりました。ですが動物とか人間は入りませんよ。」

「OK~それでいいよ

「……設定しました。名前は『ゲート オブ バビロン』でいいですね?」

「いや、『家庭の物置』と書いて『ゲート オブ バビロン』と読む」

「……次は何にします?」

「転生後に最強のA・Tフィールドをくれ。あと何枚もはれるようにしてほしいのとどこでもすぐにどんなときでもはれるようしぐ。」

「わかりました。名前は……『『ドクトモア・Tフィールド』』で。」「わかりました。」

「次は……転生後の能力を上げてくれ。Fate/stay night

「……だったらオールEXオーバみたいなかんじで。」

「…………化け物ですね…………」

「そりか?まあどうでもいいが……次は……全ての始まりに介入する能力をくれ」

「へ~どう結つ事ですか?」

「簡単に言つと………全ての事象には始まりと終わりがある。その始まりに介入することができる能力が欲しいと言つていてる。」

「えつと………始まりに介入してどうなるのですか?」

「簡単な話だ。始まりが違えば終わりも違つとゆう事だ。」

「?..とりあえず設定しますね。ええつと………名前は何にします?」

「『森羅万象』でよろしく。」

「えつと………その名前はちょっとまずい気が………「えつと次は………あれ?今思つたんだけどさ、何か火力が少ない気がする。」ってスルーですか!-とゆうよりこれ以上能力を上げてどうするのですか!-」

「そうだな………よし、次は転生後にできるだけ小さくしたガンダムXについているサテライトキヤノンを出せるようにしてくれ。あとバズーカみたいに持つて撃ちたいから反動と重さカットで。おまけにエネルギー消費無しでよろしく。あと名前は『ドーパモサテライトキヤノン』でよろ。」

「私の意見はむしですかーまあこいですけど……一応大きさはアラヤ
G-7ぐらこになります。」

「了解」あとは……型月の世界で魔術師たちが求める『』をくれ。

「わかりました。『つていいのかよー』それじゃあ転生してもらい
ますね。本当にすみませんでした。」

「こや。もう『氣』してないからこよ。それより早く転生してくれ
ないか?」

「わかりました。それじゃあいつてうらうしゃいです。」

そうアテナが『』と俺の足場がいきなり消えて俺は落ちていった。

「つおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおお
おおおおおおおおお
おおおおおおお
おおおおお
おおおお
おおお
おお
お

そして落ち始めてから数分後、俺はいきなり襲つてきた睡魔に勝て
ずに意識を手放した。

「そついえば彼、転生後の世界を決めてませんでしたね。どこにた
どり着いたのか確認し着ますか……」

ピポパボ……

「え、！なんで世界ができる前の根源に転生してるんですか……！」

アテナの絶叫が何も無い世界に響いた。

プロローグ（後書き）

感想をお待ちしております。

第1話（前書き）

キャラ紹介は第4次聖杯戦争が開始してからのせます。

第1話

きずいたら俺は暗闇にいた。そこは何も無い暗闇。まさしく深淵と呼べる場所だつた。

何でこんなところにいるんだ。たしかあのロリ神は転生させてくれるつて……

あ！ そういえば転生をせてもうつ世界きめてなかつた！

俺は深く後悔した。こんな世界じやせつから手に入れた能力も使えないじゃないか……

は！ 能力！ そうだ！ 能力だ！ あの能力！ 『森羅万象』で世界の始まりに介入できたら……

よし！ やつてみますか。

まず世界の始まりに介入しないと……つてどうやるんだ？ とりあえず念じてみるか……

…………

驚くほどに世界の始まりに介入できた。ただそこにあつた根源と呼

できた。

べる物はなにもなかつた。

これじゃあなにもできない。俺は世界の構成する数式なんてわから
ねーし……………もうだ！F a t e / s t a
y n i g h t の魔術師たちが求めていた。『』が俺の中にあるん
だよな……………うん。これなら世界の根元になるな。とりあえず『』
を世界の根元に書き込んで……………よしうまくいった。えつと……………あ
とは世界の中心を決めるだけか、うん。めんどくさいしいま俺がい
るところでいいか……………よし設定完了！と……………あとはF a t e
/ s t a y n i g h t の宝具みたいに真名を開放するだけか
……………よし！

「真名開放！『森羅万象』！…！」

俺が唱えると俺の手に光る小さな玉が現れた。

「ん？なんだこれ……………つてまぶし…………！」

俺の手に現れた玉は輝きをまし辺りを光で埋め尽くした。そして…

…

「！」の玉から光が逆流している？……………「わあああああああ
ああああああああああ

「

大爆発がおきた。

この瞬間、ビックバンと呼ばれる現象が起き、新しい平行世界がつみだされた。

そして、ビックバンの中心にいたものは消え去り、その代わりそこには一つの星があった。

そして、この星は未来で『地球』とよばれることになる。

「……………ど、こだ？……………」つて！あの口り神にあつたあの窓
間じやん…たしか…………三途の川だつけ？なんで戻つてきてんだよ…

「ハア……貴方は何をしてるんですか……」

俺の前にいきなり現れた口リ神が嘆息をもらす。

「いやいや！お前もなんであんな世界に放り込んでんだよ！」

「それにはいかないの!!スですけどなんで新しい平行世界を作つてるんですか!おかげで二つちがどれだけ忙しかつたと思つてるんですか

「お前たちがあんな世界に送つたのが原因だろ！だいたいなんだよあの世界は！」

「私が送ったんじゃないんですよ！だいたいあれは世界ができる前の空間なんですよ！貴方がそこに新しく平行世界を作ったせいで貴方が神の一人になつたんですよ！」

へ？いまこの口り神なんつて言った。

「おい……お前、何つていつた?」

「だから貴方が神になつたんですよ！しかもいきなり最高ランクの創世神つてふさけてるんですか！」

「すまん。状況がわからん。詳しく述べなせ。」

「ええ、たっぷりと聞かせてあげますよーますですね…………（色々と説明中）…………とゆうわけです。わかりましたか？」

「ああなんとなくわかった。つまり、俺が新しい世界を作ったせいでの新しい神様になつたと…………」

説明中に冷静になつた口リ神が言つこは、世界を作るのは最高ランクの神にしかできない所業でそれをした俺は最高ランクの神でちょうど空席だった創世神になつたそうだ。

「ちなみに私はこのたび創世神になつた貴方の部下になつたの部下になることになつたオリンポスの神々の一人、真名をアテナともうします。まあよろしくおねがいしますね。」

「ああよろしく、といひで何でアテナが俺の部下になるんだ？」

「簡単に説明しますと「お前が起こしたことが原因なんだから責任とれよ」ってことらしいですよ」

「神の世界も色々あるんですね…………」

「そうなんですよ…………」

「ハア……と俺とアテナは嘆息をもらつた。

「うして俺は神様になつた。」

「アーティスティック」

「なんですか？」

「俺が作つた平行世界つてどんなふうになつたの？」

ええ」とたしか」の資料にかいてます

そう言ひてビビからとも無く資料をだしたアテナは俺に資料をわたしてきた。

えつと……なになに……ちょーなにこれ！

「なんで型月の世界なのさ……」

なぜか色々変わっていたがまさしく型月の世界だつた。

第一話（後書き）

感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4871z/>

もし外道なチートオリ主が物語りに介入したら……Fate/stay night編
2011年12月16日17時58分発行